

## 門前調剤薬局薬剤師が中心となって実践する コンコーダンスと地域多職種連携

神植 達也 氏

アイン薬局 浦和店



### 要旨

さいたま市立病院前の門前調剤薬局6施設は、2015年12月から薬剤師同士が交流し学び合う「リエゾンファーマシーセミナー」を実施し、ワークショップを通じて患者さんとう向き合うかというコンコーダンススキルや薬剤師の役割、薬剤師同士の連携の必要性等について共に学んできた。今年度は、これまで門前調剤薬局の薬剤師のみの参加であった勉強会から、病院薬剤部との病薬連携の推進を目指した合同勉強会に発展させたいということで、実施に向けた調整を行った結果、2017年9月に初のさいたま市立病院内での勉強会を実施することができた。門前薬局薬剤師と病院薬剤部だけでなく、地域の他薬局の薬剤師も参加可能な会とし、勉強会の名称も「薬薬連携勉強会」とした。この連携活動に対して、県の病院薬剤師会や市の薬剤師会にも賛同いただき、運営や企画面でのサポートを得ることができた。勉強会に先立っては、各薬局の薬局長による世話人会や、調剤薬局薬剤師のみでの連携ミーティングを随時実施し、現場の情報共有や会の方向性の検討を行いながら、連携推進やスキルアップに効果的な開催方法を模索していった。今後も活動を継続することで、リエゾンファーマシーセミナーを北浦和地域の医療者の集う場に育てていくと共に、調剤薬局がハブとなった効果的な地域医療連携モデルの構築に繋げていきたい。

### 1.活動の背景

さいたま市立病院前の門前調剤薬局6施設（アイン薬局浦和店、飛鳥薬局浦和店、おか調剤本店・東店、阪神調剤薬局浦和店、ヒロ薬局浦和店）は、2015年12月から薬剤師同士が交流し学び合う「リエゾンファーマシーセミナー」を実施し、ワークショップを通じて患者さんとう向き合うかというコンコーダンススキルについて共に学んできた。2016年度からは、各薬局長を世話人とした研究会として組織化し、より実践的な活動を目指している。

調剤薬局は、厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」においても「門前からかかりつけ、そして地域へ」「対物業務から対人業務へ」等の役割転換を求める言葉が並んでいるように、地域包括ケアの中で新たな役割を求められている現状がある。特に、地域の中核病院のような大病院の患者を地域と繋げていくためには、門

前薬局の薬剤師が果たす役割は大きいと考えられる。

今回リエゾンファーマシーセミナーでは、これまで学んだコンコーダンススキルを活用した各薬局における患者コミュニケーションの実践と、地域の中核病院であるさいたま市立病院薬剤部との病薬連携の推進を目的として、定期的な勉強会を開催し、薬剤師のスキルアップと顔の見える関係づくりに取り組んだ。将来的には、現在の薬薬連携から、多職種を巻き込んだ医療連携、さらに病院と診療所を繋ぐ病診連携や介護との連携などへの発展も視野に、北浦和地域の医療者の集う場に育てていくと共に、調剤薬局がハブとなった効果的な地域医療連携モデルの構築に繋げていきたいと考えている。

### 2.活動内容と実績

リエゾンファーマシーセミナーとして実施していた

勉強会の名称を「薬業連携勉強会」と名付け、調剤薬局薬剤師だけでなく病院薬剤部や地域の他薬局の薬剤師も参加可能な会に変更し、今年度4回実施した。会場も、これまで調剤薬局の待合室で実施していたが、なるべく市立病院内の会議室を使わせていただけるよう調整した。また、勉強会に先立ち、各薬局の薬局長による「世話人会」や、調剤薬局薬剤師のみでの「連携ミーティング」を随時実施し、事前に情報共有や会の方向性の検討を行った。

表 リエゾンファーマシーセミナーの活動 (2017/04/01～2018/03/31)

| 日時         | 場所                 | 内容                                   | 講師                                  |
|------------|--------------------|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 2017/06/16 | アイン薬局浦和店待合室        | 世話人会                                 | —                                   |
| 2017/09/21 | アイン薬局浦和店待合室        | 連携ミーティング<br>「服薬情報の処方元へのフィードバック」      | 神植達也<br>(アイン薬局浦和店)                  |
| 2017/09/29 | さいたま市立病院<br>仮設棟会議室 | 第1回薬業連携勉強会<br>「妊娠と薬剤 自己免疫疾患での薬物使用」   | 廣瀬立夫<br>(さいたま市立病院内科)                |
| 2017/12/14 | 北浦和<br>カルタスホール     | 第2回薬業連携勉強会<br>「慢性腎臓病 (CKD) における薬物治療」 | 大野洋一<br>(埼玉医科大学腎臓内科兼<br>地域医学推進センター) |
| 2018/01/15 | アイン薬局浦和店待合室        | 世話人会                                 | —                                   |
| 2018/01/24 | さいたま市立病院<br>仮設棟会議室 | 第3回薬業連携勉強会<br>「地域医療における薬剤師の役割」       | 金澤幸江<br>(土浦薬剤師会)                    |
| 2018/02/26 | 阪神調剤薬局<br>浦和店待合室   | 世話人会                                 | —                                   |
| 2018/03/06 | さいたま市立病院<br>仮設棟会議室 | 第4回薬業連携勉強会<br>「今求められる連携と薬剤師の役割」      | 平井みどり<br>(神戸大学)                     |

第1、2回では、さいたま市立病院で外来を持つ医師に講師を依頼し、処方意図を理解するという点に主眼を置いた。第3、4回では、他地域で先進的な活動を進めてこられた薬剤師に講師を依頼し、薬局薬剤師と病院薬剤師それぞれが、地域でどのような役割を果たすことができるかについて学びを深めた。第1～3回では埼玉県病院薬剤師会の単位認定を受け、第4回はさいたま市薬剤師会との共催での開催となった。全4回の勉強会を通じ、延べ70名以上の薬剤師が参加した。

参加者アンケートのコメントでは「地域連携の重要性がよくわかりました」「今後の仕事に対する考え方を行動を変えなくてはと思われました」等、勉強会の意義を感じたというものが多くみられた一方、「薬業連携は門前とその病院だけでは、成立していると思いません。地域包括ケアを考えると、さらに幅広く、様々な薬局と病院がつながるべきであると考えます」など、今後の課題も指摘されていた。

### 3. 考察

埼玉県は人口に対して医療従事者の数が全国で最も少ないという特徴を持つ。現在は都内23区や近隣他府県の大学病院への搬送などでカバーされている部分もあるが、今後の高齢者の増加率も全国一という状況を鑑みると、それだけでは対応しきれない医療課題に直面しつつあると考えられ、限られた医療資源を効果的に活用するための医療ネットワークの構築が急がれている。仕組みとしてのハード面での体制構築だけではなく、それを動かしていくための人と人との顔が見える連携を整えておく上で、リエゾンファーマシーセミナーのような地道な交流の場を通じてお互いの事を知ることが、有効に機能すると考えられる。

今年度の活動の中で、これまで調剤薬局薬剤師のみの会であったリエゾンファーマシーセミナーが、病院勤務薬剤師も共に参加できる会に発展したことは、薬業連携体制構築の足がかりとして貴重な進歩であった。少しの時間ではあるが、会の中で参加者同士の情報交換の機会を持つこともでき、お互いの現状を知ることができた。疑義照会プロトコルの作成など具体的な要望も挙がってきていることから、今後はより実践的にそれぞれの課題を共有し、共に話し合えるような関係の構築を目指したい。

また、埼玉県病院薬剤師会やさいたま市薬剤師会から、後援・共催を通じたサポートを受けられたことも、会の運営上大きく役立った。薬剤師会の方でも地域内での薬業連携を進めていきたいという目的を持って活動されている状況を伺うことができ、リエゾンファーマシーセミナーの目指している方向性を共有することができたので、これからもより良い協働体制を続けていきたいと考えている。

一方で、コンコーダンスの実践状況や、連携の実践状況について、そのアウトカムを学会発表等の目に見える形でまとめるというところまでは、今回到達できなかった。今後の活動の中で引き続き取り組んでいきたい。

### 4. 謝辞

活動に参加・協力いただいた薬剤師の先生方、講師を務めていただいた先生方、埼玉県病院薬剤師会、さいたま市薬剤師会、杉浦記念財団の関係者の皆さまに、深く感謝申し上げます。